

# 厚別区連携だより R2

あついぜ あつべつ！



発行：厚別区幼保小連携推進協議会代表者会

2月末頃から始まった新型コロナウイルス感染症との闘いが、ここまで続くことを当初誰もが予想していなかったのではないのでしょうか。様々な行事や、会議、研修会などが次々と中止になる中、厚別区幼保小連携推進協議会も第1回目が中止。ついには10月の第2回目も中止となりました。しかし、これまで約8年積み上げてきた区内の連携の歩みをここで終わらせるわけにはいきません。今年度は集会としての開催はできませんが厚別区として、このコロナ渦の中、お互いの情報については別の方法で交流し合い、子どもたちの育ちと学びをつないでいきたいと思えます。

## 令和2年度の厚別区の連携のテーマ



### 「育ちと学びの連続性に視点を置いて」

### ～ 子どもでつながる顔の見える関係づくりをめざして ～

令和元年度は、交流をするということだけではなく、「育ちや学びがどのようにつながっていくのか」ということを話し合いながら「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「幼児期に育みたい資質能力」などにも迫っていこうと進めてきました。その中で教育課程の接続や、一貫性のある保育・教育活動等について話し合いができるような連携にしていくための工夫が必要であるという課題も見えてきました。そこで、今年度は子どもの育ちや幼児期の学びがどのようにつながっていくのか、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「スタートカリキュラム」などに、よりポイントを置いた話し合いを目指していきたいと願い、上記のテーマにしました。

### 令和2年度幼保小代表者紹介



札幌市立大谷地東小学校 斉藤 拓也 校長 (札幌市立小学校長会代表)

今年で2年目となります札幌市校長会厚別区の幼保小連携事業を担当している大谷地東小の斉藤拓也です。園・校務多用の中、貴重な時間を割いて多くの方が協議会に参加していただくために交通アクセスが良好な本校を今後も利用していただきたいと思います。

校種間連携のキーに「情報」を据え、「情」けに「報」いるあったかい連携推進協議会を目指していきます。

札幌市子ども未来局子育て支援部厚別区保育・子育て支援センターちあふるあつべつ

山崎 真江 所長 (札幌市立保育園代表)

厚別区保育・子育て支援センターの山崎真江です。現在、施設内にある子育てサロンは利用の制限をしていますが、子育て家庭の負担や不安を少しでも軽減するために、様々な対策をしながらも楽しめる場所の提供に努めています。この時期だからこそできることを考え、皆さんと共にお子さんの成長を見守っていきたくと思っています。

認定こども園ひばりが丘明星幼稚園 相良 郁子 園長 (一社 札幌市私立保育園連盟代表)

連携推進協議会の立ち上げの時は、幼稚園の代表として4年ほど関わらせていただき、昨年より私立保育園連盟厚別区会を代表として、努めさせていただいています。分からないながらも、代表の校長先生や市立の園長先生にリードしていただいています。年々幼保小の連携の深まりを肌で感じていただけない、この度の事態は本当に残念ですが、コロナ禍の中でもできる連携はなにかを考え合いたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

厚別共栄保育園 石井 弥生子 園長 (社会福祉法人日本保育協会札幌支部代表)

厚別共栄保育園の園長の石井です。今年2月末に新園舎が完成し、喜びを味わう間もなく「緊急事態宣言」や「新しい生活スタイル」に右往左往しながら保育がスタートし、現在も迷い・悩みながら保育をしています。今後も幼保小の連携が深まる事で子どもたちの育ちに生かせる事を見つけて行きたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

認定こども園新さっぽろ幼稚園 吉田 深雪 園長 (一社 札幌市私立幼稚園連合会代表)

認定こども園新さっぽろ幼稚園・保育園の吉田深雪です。この事業に携わって今年で3年目になります。子どもの育ちについて、小学校の先生と情報を共有し、話し合い、学び合えるこの事業を通して、お互いに「顔が見える」「つながっている」温かさと安心感を実感できるように努めていきたいと思っております。

第2あつべつ幼稚園 横湯 千恵子 園長 (一社 札幌市私立幼稚園連合会代表)

4月より厚別幼稚園から異動してきました、第2あつべつ幼稚園の横湯千重子です。今年から協議会の担当となります。分からないこともありますが、皆さんにいろいろ教えていただきながら頑張りますので、どうぞよろしく願いいたします。

札幌市立あつべつきた幼稚園 加藤 貴子 園長

(札幌市立幼稚園代表・厚別区幼児教育コーディネーター)

厚別区の幼保小の連携は、この数年で心が通うあたたかい関係を着実に築いてきていると感じています。今年度はいつもと違う状況の中ですが、代表者の皆様と力を合わせ、工夫をしながら連携を次年度に繋いでいくようにしたいと思います。

## 幼保小連絡会のお知らせ

《日時》令和3年1月18日(月)14:00~16:45

《会場》厚別区民センター ホール (予定)

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策を取りながら開催する予定です。詳細については決まり次第お知らせいたします。

## 幼保小連携コラム

マスクの下は、いつも「笑顔」です。

～保育・教育活動が再開され「集まること」の両義性の再確認を！～

大谷地東小学校 校長 斉藤拓也

待ちに待った園・学校再開。園児・児童の姿が見られる園・学校がいかに「愛おしい」存在であるかを再認識しました。2月から始まった一斉臨時休業は、5月末まで続きました。

再開した園・学校は、新しい生活様式のもと園児・児童・職員が各園・校の状況に応じた最善の感染防止対策を考え行動で示しています。

園・学校は園児・児童が集まってできるものですが、それらは単に子どもたちの集まりではなく、それ以上の特性をもっています。気分が塞いでいても大勢で集まると気持ちが上がってそんなことを忘れてしまったということは、多くの人が経験済みです。多くの人が集まると、それによって生まれた<新しい力>が個々に作用し「集まること」の魅力となります。

一方、「集まること」に対して苦手意識をもっている子どもたちにとって、今の対応がプラスに働くこともあります。ホールや教室の雰囲気や状況に合わせることで不得手な子にとって、周りの様子や言動に惑わされることなく遊びや学習に取り組むことができているのも事実です。

「浸る」という表現がまさにその姿です。一定の距離をとり『集まること』が少なくなることでプラスに働いた子どもは確実にいます。

8月から様々な保育・教育活動が本格的に再開され始めてきていますが、それによって嬉しいと感じている子もいるし、つらいと感じる子も存在していることに注意を払いたいものです。

今回のコロナ禍（騒動）は、子どもたちに関わる我々が立ち止まり、「集まること」について向き合うチャンスを与えてくれました。人々が「集まること」の自明性が見直される中、その両義性を意識することで戻るべき「元の園・学校生活」の在り方の再考につなげていかなければなりません。

マスクの下は今、笑顔！？であるかを常にアイ（愛）コンタクトで確認したいものです。

## 情報交流～今 学校や園は？

コロナとともに生活する新スタイルの実践が進められる中、小学校や幼稚園、保育所、認定こども園ではどのような変化が起きているのでしょうか。また育ちや学びにどのような影響があるのでしょうか？

3月、幼児期の学びの集大成ともいえる時期をあわただしく巣立っていった子どもたち、それを送り出した園の先生たちの心配。

コロナ禍にありながら、その子どもたちを受け入れ、新1年生が安心して小学校生活を過ごすことができる工夫をしている小学校。現状の一部をご紹介します。

## 保育所・幼稚園・認定こども園の思い、今の現状

- ・3月、いつもの年なら年長として、園での学びの集大成をし、小学校への意欲を高め、卒園式をして送り出せたはずの時期に臨時休園となった園が多い。
- ・年長の担任などは新1年生の様子を心配している。
- ・幼児は遊びを通して学ぶ。遊びの中で一定の人との距離を保つということは難しさがある。密を避けられない状況もあるので換気などをしっかりやるようにしている。
- ・様々な行事などできないことが多い中、「年長になったらこれができる」と園の中での遊びや学びの伝承ができない状況がある。育てたい力をどのようにつけていくか、育ちと学びの積み上げがどのようにできるか不安がある。
- ・教師がマスクをしていることで、幼児に表情が伝わりにくい。
- ・幼児の心の育ち、コミュニケーションの力などに影響が出ないか心配している。

## 小学校の思い、今の現状

- ・小学校では、新型コロナウイルス感染症に対応した「札幌市の教育活動のガイドライン」に沿って環境づくりをすることに苦勞しながら様々な工夫をしている。
- ・新1年生は当初戸惑ったのではないかとと思うが、臨時休校中も、各校でZOOMで児童とつながるなどそれぞれの学校ごとに工夫していた。
- ・学校で今までやっていた、行事や学年の役割や儀式等が今まで通りに行えない状況がある。様々な役割などの中で育つものがあるため、その状況づくりができないもどかしさがある。
- ・運動会、参観日などは各学校の規模、環境などにより最善を考え、その学校に合ったやり方を判断している。

この他にも先生方は様々な思いや考えをおもちではないかと思えます。

今年度の幼保小連携推進協議会では「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「スタートカリキュラム」をポイントに、「学びのつながり」について話し合う予定でした。

例えば、「新1年生が再開後にどのようなスタートを切り、先生方がどのように関わって子どもたちが学校生活に慣れたり、意欲をもったりできるようになっていったのかな？」また「園は年長さんの遊びや生活の積み重ねをどのように工夫しているのかな？」など、電話やメールなども利用し、連携先の園・学校と情報交換などをされてみてはいかがでしょうか。

コロナとともにある新しい生活の中で、来年3月に保育所、幼稚園、認定こども園はどのように子どもたちを送り出すといいのか、小学校はどのように迎えたらいいいのかこれからも一緒に考えていきたいと思えます

